

2日間という短い間だったが、無事終わることができ安心した。初日は生徒と打ち解けることができるか不安だった。しかし、生徒の方から話しかけてくれることもあり、すぐに打ち解けることができた。

1・2時間目は重度の障がいを持つ子どもたちのクラスでの体験であった。私のクラスの生徒は2人であったが、その中の一人が、自分で立つことや歩くことも困難な子で、立つ時に補助をしたり、歩くときには手助けしたりと初めて行う介護にどのように対応すればよいかわからずに、他の先生方のしているように真似をするだけで精一杯であった。

1日目で気づいたこととして、同じクラスでも障がいの程度は様々であること、障がいの軽い生徒は障がいの重い生徒のことを助けてあげたりしていて驚いた。放課後は本来予定されていた校長、教頭先生による講話がなくなり、生徒たちのクラブに行くことになった。私はバスケットボール部に参加したが、健常な生徒とほとんど変わらないような動きをする生徒もおり、体験中の学生と生徒たちで試合をした時は、シュートやインターセプトをしたりして、試合を大いに盛り上げてくれた。

二日目は登校してきた生徒を迎えに行ったり、教室まで連れていったりとスムーズに始めることができた。昨日と同じように介護をしようとした時に「なるべく自分でできる部分までは手伝わないようにしてください」と言われ、昨日は手伝いすぎな部分があったと思えた。

今回の二日間の体験の中で一番良かった部分として、自分の中にある障がい者に対する偏見が薄れてきていることがあげられる。豊中支援学校の生徒の中には、一般の生徒とほとんど変わらない子がたくさんいた。そういった子がいることをまず知らなかったし、知ろうともしなかった。どこかで障がいを持っている＝あまり関わりたくないと思っていたことを強く意識するようになった。このような偏見を多くの人を持っているのだなと思った。多くの障がいを持っている子が特別支援学校に通っているが、皆が障がいに対しての偏見をなくしていつの日か特別支援学校の存在が不要になる時が来て、健常な子と同じように学校で過ごす日がくればいいのにと考えた。